

「日本とフィンランドにおける『働き方』の違い ～社会の背景や価値観から考える～

フィンランド社会文化研究科 坂根シルック

1. フィンランドについて

- ◇ 歴史的背景：1917年にロシアから独立
- ◇ 日本とほぼ同じ国土に約550万人が暮らす ⇒ 全ての国民が必要とされている

2. 平等社会

- ◇ 1906年にヨーロッパで初めて女性が選挙権及び被選挙権を取得
- ◇ 1952年：ロシアへの戦争賠償金の支払いを終え、税収が増え、経済が少しずつ発展した
- ◇ 1950年～1960年代：国民全員に十分な収入と基本サービスを保障する為、家族・男女平等政策が進み、フィンランド型社会福祉国家の基盤ができた
- ◇ 1970年代から共働きが増え、男女間の差が縮まった
- ◇ 1973年：義務教育が無償になった
- ◇ 1990年初め、新たな教育政策によって誰もが対等に高等教育までを受けられるよう、大学までの学費が無償化された
- ◇ 現在は労働人口の半分以上が女性、8割の成人女性がフルタイムで働き、キャリアを持っている ⇒ 男女間の差がほとんどない社会
- ◇ 目指してきたのは福祉 (social welfare) 国家ではなく、誰もが対等に自分らしく暮らせる幸せな”ウェルビーイング (well-being) な国家”

3. 価値観と国民性

- ◇ 「人は人、自分は自分」
- ◇ 子どもの頃から自分のことは自分で考え、決定できるよう育てられる
- ◇ “あるべき論”が少ない
- ◇ それぞれのライフスタイルや価値観を尊重し、干渉しない
- ◇ 管理すること、されることを嫌う（職場でも家庭でも）
- ◇ 仕事とプライベートを分け、メリハリをつける
- ◇ 休むことも大切にする ⇒ 有給はまとめて消化する
- ◇ 立場や地位に関係なく、誰もが“自分の人生”を楽しむ（権利）
- ◇ 生涯学習を大切にしている ⇒ 健康寿命

4. ワークライフバランスとウェルビーイングな働き方

- ◇ 学歴よりも経験や実力が優先
- ◇ 入社時から即戦力として働き、実力次第で誰でも管理職になれる
- ◇ 仕事も給料も男女間で差は無い
- ◇ 最初から役割が明確で、自分の仕事に責任を持つ (Job Description)
- ◇ 時間外と休日は働かない
- ◇ 体調不良の時はしっかり休む（効率が悪い上、ミスも増える）
- ◇ 実力主義
- ◇ 職場の人やお客さんと勤務時間外では付き合わない
- ◇ キャリアの為の転職は当たり前
- ◇ 生きるために働く